

「Google meet」への接続テストについて

2学期がスタートして、4日間たちました。夏休みの生活から、学校に登校する生活リズムは、取り戻せたでしょうか？

さて、海田町でも、コロナウイルス感染症について、学校内での感染が心配されるようになり、臨時休業への対応策が必要な状況です。

そこで、9/3（金）にお知らせしましたように

9月8日（水）16：00～16：30

に、各家庭でのタブレットの接続テストを行います。「回答用紙」を集めさせていただき、その中にいくつかご質問がございましたので、次のようにお答えいたします。

Q①「今回の接続テストの趣旨は、何ですか？」

→ すべての家庭に対して、どの家庭が接続できるかの確認の意味もありますが、当日、町内小学校が一斉に「接続テスト」を行い、回線が混乱しないかなどの接続環境調査の意味合いもあります。

Q②「接続テストに使用するのは、学校のタブレットですか？」

→ はい、そうです。8日（水）に家庭へ持ち帰り、翌日、9日（木）にすぐを持ってきてください。「学校のタブレット」で接続できるかどうかのテストですので、家庭用のパソコンや、保護者のスマホで接続していただく必要はありません。なお、持ち帰りに「手提げ袋」などがありますと、安心です。

Q③「児童クラブなどで子供が不在のため、接続テストはできないのですが、どうしたらよいですか？」

→ 児童クラブ等により、8日（水）に接続テストに参加できない家庭には、学校のタブレットは持ち帰らせません。今回は、全町で接続が可能かどうかの一斉テストですので、8日に参加できなくても大丈夫です。

Q④「その時刻に、保護者が会社等で接続テストをしてもいいですか？」

→ 家庭で、学校のタブレットで接続できるかどうかのテストですので、保護者のパソコンやスマホでの接続は、行っていただくなくても大丈夫です。

Q⑤「子供だけで接続テストをしてもいいですか？」

→ 臨時休業の際に、子供だけで接続して学習することを想定していますので、**子供さんだけで**チャレンジさせてみてください。学校で、「Google meet」への接続の練習をしていますが、それでも接続できなかった場合は、また、学校で練習します。なお、9/6（月）に保護者向けの接続についての説明資料をお配りしておりますので、参考にしてください。

Q⑥「臨時休業になった場合は、学校のタブレットを持ち帰って使用するのでしょうか？」

→ はい、その予定です。そのために、学校のタブレットを使用して接続できるかどうかのテストを行います。ただし、児童が不在になる家庭もありますので、今回は、接続できる家庭だけで、テストを行います。

Q⑦「今回の接続テストに参加できなかった家庭は、別な日に接続テストを行うのでしょうか？」

→ 今のところ、別日に接続テストを実施する予定はありません。基本的には、夏休み中に「Google classroom」に接続できた家庭は、「Google meet」にも接続できると思われます。実際に、臨時休業になる際に、最終確認をいたします。

Q⑧「実際に臨時休業になった場合、接続できない家庭は、どうしたらよいのですか？」

→ 現段階では、接続できない家庭の児童は、「学校に登校して、回線がある特別教室等で接続して、授業等を受ける」や、「プリント学習を行う」などの方法を検討しています。各家庭の実情が様々ですので、接続できない家庭ごとに、対応を考えることとしています。

この他にもご心配なことがありましたら、ご遠慮なく、担任にお伝えください。私の方で、責任をもってお答えいたします。よろしくお願いいたします。

校長の真面目な子育て日記②

みなさんは、NHK Eテレ「すくすく子育て」に出演されていた東京大学名誉教授「汐見 稔幸」先生をご存じでしょうか？ 9/5（日）に、汐見先生の講演を聴く機会があり、大変勉強になりましたので、何かのお役に立てればと思い、お伝えします。

汐見先生のお話は、私自身の子育て、日本の教育の弱点を指摘されたようで、今後の私自身の教育への取組を見直さないといけないなと考えた次第です。

- これまで日本の学校や家庭で行なわれてきた、子供に対して知識理解を教え込む教育ではなく、自分の考えがはっきりと言える子どもを育てることに主眼を置くべきである。
 - ・ デンマークの国では、何か習い事や行動をする際に、子供に「どうしたいか？」を必ず尋ねて、意見を聞く習慣がある。ベビーカーにいる赤ちゃんにでも、答えられないが、「どうしたい？」と聞くくらいである。子供の主体性を尊重するべき。
 - ・ 早期教育のように、早くに知識理解として難解な言葉や学習内容を学んでも、その言葉の使い方を知らないと、実社会では通用しない。早期教育で大成した人を、（汐見先生は）聞いたことがない。理解できないほど先の勉強は必要ない。
- 子供への注意（声かけ）は、「否定」ではなく、「肯定」のしかり方を基本とする
「どうして早くできないの！」→「どうすれば早くできる？」
「どうして片付けられないの！」→「どこから片付けようか？」
- 我が子の悪いところを言うことは簡単だが、いいところを言うのは難しい。
「1人1人の我が子のいいところを20個言えますか？実際に紙に書いて、台所に貼って、暗唱できるくらいになれば、子供への接し方が変わってきますよ」
- 今後は、知識理解能力が高い人よりも、コミュニケーション力、社会力、ねばり強さ、あきらめない心などの非認知的スキルが高い人が求められる。そのためには、勉強だけでなく、自然の中での遊びや体験、様々な人との活動・交流が大切である。
というような内容をお話しされました。

前回の私の「子育て日記①」でもお伝えしましたように、我が家では、反抗期真っ盛りで、「ツンデレ」の娘に悪戦苦闘しています。過去に遡って子育てはできませんが、子供と一緒に過ごせるのも、そんなに長い期間ではありません。日々、反省ばかりですが、じっくりと子供の良い所を20個書いてみようと思っています！